学校番号	３０３５

令和５年度　芸術科（美術）

教科	芸術	科目	美術Ⅲ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	高等学校「美術３」（光村）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

１、１年次および２年次の本校「美術」学習で得た表現力と創造性および鑑賞の能力をもとにして、より高度で多様な表現力を　身につけてください。同時に優れたプレゼンテーション能力も身につけましょう。
２、１年次の発想方法の訓練とその具体化への方法を、より確かな表現力・創造力に育てます。
３、身につけた基礎的な描写力や構成力・表現力を、これからの様々な局面で応用できる汎用性の高い能力として定着させてください。

2　学習の到達目標

１、教材を総合的・学際的に扱い、芸術領域にとどまらない広い視野に立ち、美術の意味、芸術の本質を常に意識できる生徒を育成する。
２、文化領域としての美術・工芸を国際的視野と歴史的観点に立って理解できること。
３、発想方法の訓練からその具体化へのプロセスを体験し、確かな表現力・創造力を組織的、体系的に育成する。
４、描写力や構成力といった基礎的な表現力をつけ、高校後の多様な専門教育に対応できる高度の能力を育てる。

3　学習評価（評価基準と評価方法）

	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	力強い表現力をつけようとする意欲。 教材を総合的・学際的に考える能力。 芸術領域にとどまらない広い視野に立った表現方法への興味と取り組み。 国際的視野と歴史的・伝統的観点。	発想の具体化のプロセスを経験し自分のものにできたか。 表現を楽しみ、描く作ることの面白さを感じることができたか。 美しい色、機能的な形、説得力のある表現形態を創造できたか。	創造力と技能は相互補完的な働きをする。 表現に必要な技能が身についたか。 表現に自分らしさや工夫が見られるか。	他人とは違う、自分らしい見方ができているか。 鑑賞が実作に反映できているか。 文化遺産・伝統芸術への関心を持ち、知識としての蓄積が見られるか。
評価方法	制作への準備 制作態度 提出物の充足度 制作物の扱い	提出物 　制作途中のラフスケッチやアイデアスケッチの数量と内容 完成作品の観点別評価 　指導内容との整合性・充足度の段階的評価 制作物の密度	制作途中の作品や提出物について、予想以上の成果を期待し、より積極的に評価する。 技術的な成果、精緻な表現等について評価。	鑑賞レポート 作品制作のための研究段階での参考作品調査と鑑賞の豊富さ。

上に示す観点について、学期ごとに数値による評価をし、学年末に５段階の評定にまとめる。
また、授業成果は、適宜校内ギャラリーで、芸術発表会ギャラリー部門として展示公開する。

４、学習の活動

学期	題材名	学　習　内　容	a	b	c	d	単元（題材）の評価基準	評価方法
Ⅰ学期	絵画的表現　基本描画	速写（クロッキー）　人物の全体像を瞬時に把握する能力と表現力			○		c. 画面一杯に連続した線でバランスよく描いている	提出物 授業観察
		デッサン（理性的描画法） 形の分析と形態の論理的把握		○			b. 形と明暗を正確に表現している	提出物
		立体表記法（三面図と見取り図） 入試問題を取り入れた構想表現			○		c. 空間の把握と正確な形体描写をしている	提出物
		色と明度・彩度（色彩論） 色彩計画と配色練習	○				a. 配色、色彩構成等を的確に表現しようとしている	提出物
		生徒作品や立体造形作品を鑑賞しその構造や構成美を研究する				○	d. 奥行きのある空間表現と力強い構成を理解している	授業観察
		立体構成の実作　制作条件の設定			○		c. 制作条件を充足して、独創的な立体を制作している。	提出物・計測
		静物デッサン（鉛筆画） 対象の形態把握　光と陰影の表現			○		c. 形と明暗を正確に表現している	提出物
		人物画の秀作・作例を観賞				○	d. 人物表現の基礎的な表現方法を理解している	授業観察
		自画像小品　３点　小キャンバス 自画像の細密表現			○		c. 自画像を創造的に表現している	
		立体造形１．２「橋」「塔」 限られた材料での構造物の制作			○		c. 制作条件を充足した立体を制作している	
Ⅱ学期	油彩画大作の制作	３０号キャンバスへの制作 課題「自画像のある風景」 様々な作例を観賞・研究する			○		c. 創造的で独創的な大画面の構成をしている	提出物
		写実性のあるモチーフをとし、描写力・構成力・表現力を高める		○	○		b. 制作の意図が的確に表現している c. 創意工夫によって造形的な美しさを深めている	提出物
		卒業制作展 ３年生の全作品の展示				○	d. 絵画表現の集大成として、高度な描写力、構成力、表現力が身についている	展示発表
Ⅲ学期	芸術論購読	鑑賞　芸術論講読 表現の多様性について 表現の質を高めるとは 芸術家として必要なこと				○	d. 芸術の意味の理解と独自の考え方による把握をしている	レポート

芸術的観点に立って、生徒それぞれの到達度をふまえ、上記の観点から評価を実施する。
授業成果は、適宜校内ギャラリーで、芸術発表会ギャラリー部門として展示公開する。

※表中の観点について、a,美術への関心・意欲・態度　b、発想や構想の能力　c,創造的な技能　d,鑑賞の能力とする。
※年間指導計画作成上の留意点　原則として、一つの題材でa-dの観点について評価することになるが、学習内容の各項目において、重点的に評価をおこなう観点について、○をつけている。p